

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

『住基ネット』と『パブロフの犬』～2002年9月『週刊タイムス』より

『パブロフの犬』という言葉をご存知だろうか。パブロフという条件反射の研究者が、手を1回叩くとワンと鳴き、2回叩くとワンワンと吠える。叩いた意見た時間、その必然性、一切関係なく、条件反射で無意味に鳴くだけのことである。

戦争がなく平和がいいのは、人間なら当たり前望むこと、環境が汚染されるに、喜びを抱く生物はいない。福祉を充実するに、何でためらう必要があるか。

しかし現実には、色々クリアしなければならない事があるのも事実。平和を維持するためにどうしたらいいのか、十分な福祉を実践するには具体的にどう財源確保するか、決して綺麗事でなく、個人レベルや社会全体としても、かなりのボリュームで真の努力を果たすべきところ、これを無視、やたら反対・反対を連呼する。しかもいかにも正義面して...というおまけ付だからタチが悪い。

昨今、こんな日本人が多くなり、外国人から見ると正に『パブロフの犬』に見えるようである。

今年の8月から『住民基本台帳ネットワークシステム』(以下住基ネット)の第1時稼働が始まった。

個人情報保護対策が万全でないとの事で、全国一斉に「反対」の声が巻き起こった。特に進歩的文化人と称する学者、評論家、インテリゲンチヤーが盛んに批判を繰り返している。

実は住基ネット構想の出発は、平成6年8月、以来8年間、ずっと検討が繰り返され、着々とその準備が進められてきた。その費消時間と費やしたコストは莫大なものがある。その目指すところは、日本再生の柱であるe-ジャパン構想であり、電子自治体を構築するためのインフラ整備の1つである。

何故e-ジャパン構想なのか、何のための電子自治体なのか、住基ネットで個人情報に、どの程度漏洩するのか、そのための法的整備の現状は...

そんな基本的、かつ正確な情報を、反対する評論家や、導入を中止した自治体の首長さんは、どれだけ理解し、その影響を受ける住民に、どんな責任をとれるのか。新聞での情報だから真偽の程はよく分からないが、情報が漏れるという事由で、市内のインターネット接続を中断したという記事を見るに至っては、無知・無能を飛び越え『滑稽』にしか思えないのは、ただ小生のみだろうか。

住基ネットにまつわる動向の一部は、『パブロフの犬』であってはならない。政治経済、介護福祉、医療、更に文化や教育に至るまで、将来のわが国の姿を決

すべき『電子化構想』、確実に動き出した今、知らなかったでは済まされない。市民・国民・納税者や有権者の一人として、その責任と義務を果たさなければならぬまい。

将来の日本経済の再生が、この電子化構想に懸かっていると言っても過言で無いとしたら、我々日本人の、輝かしい子孫のために、この小さな個々人が果たさなければならない事、真剣に考える絶好のチャンスであろう。

2002年9月5日発行『週刊タイムス』掲載
やぶにらみ日本経済再生論(3)より